令和六年　如月　757号

むなかた

目次

令和六年　正月　3・2
どんど焼き　4
感謝状贈呈　5
節分祭・造営日記　5
神宝館だより・みこころ　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よてき　このたび能登地方を震源とする大規模地震により犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地域のみなさまの安全確保、そして一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

・・・

令和六年

皇紀二六八四年

甲辰

新しき年の初めの初春の
今日降る雪のいや重け吉事

大伴家持

辺津宮

令和六年元旦午前零時、大晦日の夜よりの降雨、強風と不安定な天候のなか新年を迎えた。神門の開門とともに辺津宮本殿の前は一瞬にして参拝者で埋め尽くされ、参道にできた列は第一駐車場まで続いた。早朝には雨が上がり天候が回復し、近年稀にみる暖冬での正月を迎え、境内は多くの参拝者の姿があった。

午前九時に宗像大社氏子会城野正雄会長、宗像大社氏子青年会郭会長ほか七名の参列のなか歳旦祭が斎行された。三が日で延べ八万人の方が訪れ、賑やかに新年の幕開けを迎えた。

中津宮

筑前大島に鎮座する中津宮。島内の氏子ら参列のもと、中津宮はじめ御嶽神社や島内に鎮座する神社にて歳旦祭が斎行された。大島は島民をはじめ帰省者らが参拝に訪れ、和やかな雰囲気の中での新年となった。

沖津宮

玄界灘の沖ノ島に鎮座する沖津宮。神職が交代で奉仕しており、ただ一人静寂の中、新年を迎えた。

宗像大社の三宮はそれぞれの様相で新しき年を迎えた。この一年変わることなく祭典が斎行されていく。この姿は今も昔も変わらず、連綿と紡いできた歴史でありこれからも絶やすことなく続けられていく。

津加計志神社 辻八幡宮 どんど焼き

一月十四日、神湊に鎮座する津加計志神社、また江口に鎮座する辻八幡宮において「どんど焼き」が執り行われた。

一般的に一月一日を大正月というのに対し、一月十五日を小正月（旧暦での新年）といい、全国で様々な行事が行われる。中でも正月に飾った門松やしめ飾りを持ち寄って燃やすどんど焼きは「どんと焼き、どんどん焼き、左義長」等呼び方は様々だが、全国各地で行われる小正月の風物詩となっている。この行事は、「正月に降りてきた年神様が、どんど焼きの忌火にのって天上に帰って行く」と考えられている。

津加計志神社・辻八幡宮のどんど焼きは、神社に納められた旧年の神札・御守の御神威を元の神坐にお返しする神事「古札焼納祭」の側面もあり、各神社の境内に設けられた祭場において、当社神職の奉仕のもと、神々のご加護を感謝する祝詞が奏上され、次に昇神の儀が執り行われ、引き続き古い神札・御守・正月飾りが忌火により焼納された。

近年、どんど焼きは、都市部での土地の問題や近隣住民からの苦情により、除夜の鐘同様中止に追い込まれる話をよく耳にする。年末年始の情緒ある伝統行事の風景が見られなくなる事は、寂しい限りである。

津加計志神社

辻八幡宮

津加計志神社

宗像市神湊九五一に鎮座する。御祭神は宗像三女神。例祭日は九月十五日。

辻八幡宮

宗像市江口一二八四に鎮座する。御祭神は大鷦鷯命。例祭日は十二月十五日。縁起によると辻原社、辻原明神とも呼ばれていた。

両宮共に月次祭をはじめ年間の祭典を当社より神職が出向して奉仕を行っている。また江口地区の氏子は十二月に斎行される古式祭の特殊神饌にて使用されるゲバサモを納める役割を担っており、同日には辻八幡宮にて古式祭（霜月祭）が行われている。

沖中両宮奉賛会会員 宗像警察署より感謝状贈呈

昨年十月二十九日沖中両宮秋季大祭終了後、沖津宮遙拝所の片付けをしていた奉賛会の藤島一政氏、田志正弘氏、田志龍吉氏の三名が人命救助を行った。これに対し一月十五日の中津宮月次祭終了後、宗像警察署長より感謝状が贈呈された。

節分祭 開運・厄除けを祈る神事

節分とは季節の分かれ目を指す言葉で、立春・立夏・立秋・立冬の前日の事を言う。「立春をもって年とり」と言われる様に旧暦では立春を一年の始めとしており春の節分を特に重視していたことから、今では立春の前日のみを意味するようになった。この立春には冬と春がぶつかりあい、邪気が発するといわれ、立春の前日、季節を分ける節分の日に、災難を除き、邪気を追い払う追儺神事が節分祭である。当社では古式に則り、鳴弦（めいげん）の儀（弓で邪気を射祓う）、豆打ち式が執り行われ、一年の厄除、災難消除、延命招福が祈念される。

節分祭　2月3日（土）11時
宗像大社辺津宮本殿
豆打ち式　節分祭終了後、境内特設舞台にて

時満ちて道ひらく 造営日記 57

国庫補助事業
辺津宮末社保存修理工事

昨年の六月に仮殿遷座祭を斎行し、工事が進められてきた末社であるが、当初計画の宇生神社・政所神社に加え、十一月からは百大神社・二柱神社の保存修理も行った。四社は二月中旬頃には引き渡され、三月一日に本殿遷座祭の斎行を予定している。

神宝館だより 82
八万点ノ国宝収蔵

能登半島視察記⑤

震災から一か月が過ぎましたが、被災者の皆様にはお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い復旧、復興を心より祈念申し上げます。能登の史跡、名所、景観を見て風土に触れ、学んだことや感じたことを引き続き報告し、能登の素晴らしさを伝えてまいります。

視察の二日目、八月十一日は寺家遺跡に続く視察のメイン、舳倉島渡島で、朝から島へ渡り四時間ほど島内を見て回る計画だった。輪島港から島までのフェリーは天候不良で数日欠航が続いていた。運行可否は当日の朝発表されるため、前日から視察団一行は心配していた。結局、運航は「巻き返し」の運行となる。波は高いが、お盆に向けて島民を輪島に連れてくるために船を出し、島に着いたら直ぐに引き返してくるというものであった。我々は上陸が難しくとも貴重な体験を得られると考えて乗船することにした。

舳倉島は輪島沖約五十kmの海上にあり、周囲四km、標高は最も高いところで十二・四mと非常に平坦な島である。海女漁の島として知られ、輪島の海士町の人々は八十八夜から秋の彼岸まで島に住んで漁をし、秋から冬は海士町へ戻って行商などの稼ぎをしていた。舳倉島は近世初頭に宗像の鐘崎の海女が渡ってきた島として有名である。（福）

※参考資料：楠本正『玄界の漁労民俗 労働・くらし・海の神々』（1993年、海鳥社）
小嶋芳孝「舳倉島と能登」（1990年、網野善彦編『日本海と北国文化』海と列島文化1、小学館）ほか

定期船「希海」で舳倉島へ。85分の船旅である。

七ッ島・舳倉島位置図

みこころ

新年が明け、早くも一カ月が経とうとしております。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？▼梅の花も咲きほのかな香りも漂う季節となりました。コロナ禍も落ち着き、各地で地域の祭りや行事が以前のように実施され賑わいを見せております。年始は、多くの参拝者の方にお越しいただきました。露店もたくさん並んでおり、人出の戻りを実感しました▼当社では、二月三日に節分祭が行われます。節分は、年の変わり目に邪気を払うことで無病息災を願う行事といわれています。十一時からの祭典後には境内にて豆打ち式も行いますので皆さまぜひお越しください▼また、私は奉職して初めての年越しとなりました。日々、先輩方から培った知識をもとに奉仕しています。四月からは、後輩もできるのでお手本となれるように精進して参りたいと思っております▼インフルエンザやコロナウイルスもまだ流行っておりますので、お体に気を付けて健やかにお過ごしください。（野）

第750回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切（順不同）

沁込んだ傷痍軍人父の闇欄間で睨む金鵄勲章　　早川　祥三

傷痍軍人の父の苦が家に浸み込んでいると感じていた作者なのか。下の句はよく分からなかったが、父が授与された金鵄勲が欄間に飾られていたと読んだ。

ランタナの技よりのびる蜘蛛の糸風の吹くたび白く光りぬ　　佐々木和彦

ランタナは花の可愛らしい、鉢植えなどにする植物。そこにかかる蜘蛛の糸を作者は見たのだ。観察眼が効いた、感覚の繊細さが見える美しい一首だ。

常夏のハワイへの旅ワイキキのホテルに泊まり踊るフラダンス　　秋吉　嘉範

作者の大切な旅の思い出。フラダンスを踊ったのが作者なら結句を「踊ったフラダンス」、見ただけなら「見たフラダンス」としたい。

わが庭の満点星（どうだんつつじ）の燃える赤画像送りぬ季節の便り　　萩原　勉

満天星つつじの紅葉は鮮やかで温かい感じだ。作者は庭で紅葉した満天星の写真を親しい人に送ったのだろう。結句は〈季節の便りと〉としては。

しみじみと詠みたいものを戦争のニュース多くて咆吼になる　　山﨑　公俊

普段は温厚な作者が歌を詠もうと胸の内を覗くと、ウクライナやガザでの戦争への怒りがこみあげて来て静かな言葉では収まらなくなるのだろう。

寄る辺なき我を訪ねてはるばると那覇より来たる初老の人よ　　本田エリナ

訪ねて来てくれた人への感謝の気持ちが「はるばる」に籠っている。四句切れにして〈那覇より来たり初老の人は〉とすると感謝が強く感じられる。

ゆるやかな時を愉（たの）しむ小津映画”倍速“とやらの流行（はや）る令和で　　東　雅子

令和の若者たちは映画を見る時も時間を惜しむのか、早回しで見るのが流行っているらしい。そんな時代だが作者は小津映画の緩やかな時間を楽しむのだ。

持病あると医師に閉院告げられて目と目を合わす黙すほかなく　　吉﨑美沙子

ドクターが病み、馴染みの医院が閉院することになったのだ。衝撃を受けた作者だろう。初句は〈持病持つと〉とすると閉院の理由がよりよく分かる。

「生きている」突然出てきたひとりごと手術が終わり目が覚めたとき　　堺　玲子

手術の麻酔から醒めた作者の実感が声になって出て来たのだろう。独り言が初句に置かれたことで実感がよく出た一首になっている。

◆選者詠

みるからにおつさん顔のとら猫が庭にきて鳴く恋の季節と
キャッチしたときはたしかに福だつた節分祭でまかれたる飴

第720回　俳句

継ぐ炭の遅きに埋火が熾（おこ）る　　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名

（令和五年十二月）
（順不同・敬称略）

一〇、〇〇〇円

鹿島市　髙木美和子
羽曳野市　谷口商事㈱
大阪市　藤田　大作

五、〇〇〇円

市原市　井口　博彦
筑紫野市　岩谷　良一
長崎市　熊　信也
高松市　谷　益美
大牟田市　中村　洋子
千代田区　三好　麻紀

三、〇〇〇円

糸島市　國分　一美
大阪市　福地　昭義

二、〇〇〇円

伊勢市　河野　訓
安城市　鈴木　常司
台湾　古　麒正

お知らせ

古いお札・御守り等のお預かりについて

正月三が日および一月中は、祈願殿横の特設テントにて、古いお札、お守りをはじめ神縁品をお預かりしておりました。二月からは、本殿のお守り授与所の前にお預かりする為の古札返納箱を設置しておりますのでそちらに、お返しいただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、社務所（〇九四〇-六二-一三一一）までお問い合わせください。

むなかた
如月（きさらぎ） 第757号

2月 まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭 宗像護国神社祭	午前11時
3日	節分祭 豆打ち式	午前11時 節分祭終了後
11日	紀元祭	午前11時
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
17日	祈年祭	午前11時
23日	天長祭	午前11時

編集後記

小生が出向させていただいている団体に「福岡県神道青年会」がある。県内四十歳以下の神職で構成され、外部より講師をお呼びし研修会などを開催し同士ともに研鑽を積んでいる。この団体は本年度で創立七十周年を迎える▼また「神道青年全国協議会」という全国単位の組織もあり、こちらは次年度創立七十五周年を迎える。四十七都道府県各地に青年神職の仲間たちが各神社の奉仕に併せ、様々な青年会としての活動を展開している▼この度の能登半島で起きた地震では、被災地域に神社も入っている。社会コミュニティの中心であり、心の拠り所である神社。「青年神職は汗をかくことであります」――折々で、先輩方から言われる言葉である。要請があった際には、県下青年神職一丸となって被災地の為に汗をかきたい。（黒）

宗像大社

2024年2月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62―1311（代）　https://www.munakata-taisha.or.jp/